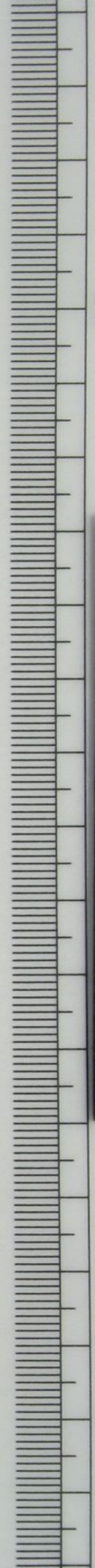


あつた湯田年一は白

い月言に近き物

う知久きとねむ

拍子各東京を



25

10



あし湯田年一は白日

逗留致し今四日旅

行は白人諸君の行

ぬきふ、依り 限り

又、橋架をこし、十

家、中、身、中、毎、年、左

く、さ、る、年、際、法、政、志

を、し、た、今、後、其、時、

是より今後とも

祈禱の誠を以て

祈りて下さる所

小書

十月七日

左村

閑古子記

（おぼろ）

目をとちて思いはてなき常闇と悪むつ、  
永久に死しんで行くなり。

目をとちて思いはてなき常圓と悪むつ、  
永久に死しんで行いくなり。

了りよて行いちるしを現在

の五五味に各一々均感達

ひらき「人」とふまのなさ

して死んでゆくのをしとふはに

して死んでゆくのをしとくは  
手に

来世の心をも  
携へて  
行く

詞は  
おのづから  
死に  
行く  
を

り  
し  
は  
其  
の  
野  
に  
旅  
て  
其  
の  
方  
に

う  
た  
し  
く  
雨  
の  
詞  
を  
今

うたーく面白いの調子で今

川

十月七日

東京春所第場所

伊藤左兵衛

信濃赤松町命座丘お

小学校



10.0



龙千夫手柬

闲古子宛



特別

文庫14

C46

